

アイスコーヒーその3

2024.9.12

まだ終われなかった。アイスコーヒーのことである。朝、いつものコンビニに立ち寄った。すると、この前のかわいらしい二人組のおばあちゃんがいるのではないか。アイスコーヒーの容器を手にしている。専用ケースから取り出したばかりであろう。パンもある。お二人のこの日の朝食は、パンにアイスコーヒーである。

ちょうどレジに並ぶところだった。二人とも慣れていて、いつものルーティンのように見える。二人でコーヒーコーナーに行く。容器のふたをはがす。所定の位置にセットする。3段階から、好みの濃さを選ぶ。コーヒーが出てくる間に、ふたとストローを準備しておく。ガムシロップが入ったかどうかは、確認できなかった。ミルクは入れていない。

二人とも、実にスムーズである。ここで考えた。この前お会いしたときと今回は、いつもよりも早めにコンビニに着いた。そのため、お二人に会うことができたのではないか。もしかしたら、私が毎朝行っているように、お二人も、このコンビニを利用しているのではないか。そう考えると、あの流れるような動きも合点がいく。

前は、イトインコーナーでの朝食だった。ところが、今回は、購入したパンをバッグに入れ、アイスコーヒーを片手に店を出ていった。そして、二人で南の方角に歩いて行った。明らかに目的地を目指している歩き方である。あのパンは、どこで食べるのだろうか。バッグに入れるためにパンにしたのだろうか。そういえば、この前は、パンではなかった。だから、イトインだったのか。

コンビニのアイスコーヒーを持ちながら歩くおばあちゃんである。珍しい光景である。また、考えた。いつもよりも早めにこのコンビニに行けば、またお二人に会えるかもしれない。もうしばらくは、アイスコーヒーをお飲みになるのではなかろうか。

この日の私はというと、アイスコーヒーを断念した。もし、いつものようにアイスコーヒーを購入していれば、タイミングとして、お二人の後ろに並ぶことになる。それは、申し訳ないような気がした。何も買わないで出るのも、これまた申し訳ないため、久しぶりに牛乳を買うことにした。

駐車場から、南へと向かうお二人を見送った。歩き方もさっそうとしている。足どりがしっかりとしている。手には、アイスコーヒーである。果たして、毎朝、どこに向かうのだろうか。日によって、目的地は変わるのだろうか。またお二人に会えるときを楽しみにしたい。